

## 駿河台地区副所長

著者	井田 正道
雑誌名	明治大学情報科学センター年報
巻	18
ページ	1-1
発行年	2006-11-01
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10291/4317">http://hdl.handle.net/10291/4317</a>

## 〔副所長所見・駿河台地区〕

駿河台地区副所長・井田 正道

2006年3月で情報科学センター副所長の任期が切れたが、2006年4月より再任され、情報科学センターとのお付き合いが続くこととなった。センターとのお付き合いは2002年に教育専門部会長に就任してから5年目に入る。もっとも情報科学センターは解体の過程に入っており、おそらく私と鈴木副所長（和泉）、鎌田副所長（生田）が情報科学センター最後の副所長としてセンターの幕引きのお手伝いをするようになる。副所長としての本年度の仕事はいずれもスムーズな新制度移行の構想を明確化することになり、スタッフ会などで活発な論議が行われた。折しも事務機構の大改革とも重なるため、新組織のあり方に関する議論は複雑化した。

また、昨年度からは新しくできた「教育の情報化推進本部」の委員も引き受けており、2006年度からはその中の情報教育推進部長を務めている。2002年にたまたま入った情報科学センターであったが、今後もしばらく「情報」関係の仕事に関わることになりそうだ。情報科学センターは教職員一体で業務を遂行しているが、この3年間、至らぬ副所長であったが何とかまっとうできそうなのは、職員の方々のご協力のお陰である。この場を借りて御礼申し上げたい。また、ここのところ感じるのはかつて存在していたセンター専任教員の存在の大きさである。現在ではセンター専任教員が不在であり、シラバス・チェックひとつとってもこの穴を生めることは容易ではない。今後、教員側のリクルートメントと人材育成も課題となろう。

「教育の情報化推進本部」の誕生により、情報科学センターの業務から表向き教育機能が除外された。とはいえ、各地区副所長は従来どおり月一回のリーダー会を招集し、それに加えて本年はTAも含めたアシスタント・ミーティングも開催した。特にアシスタント・ミーティングでは、いままで知ることのなかった問題も浮上し、有意義であった。センター・アシスタントに関しては、近年、人材不足が深刻化しており、2006年度募集では年齢要件を緩和し、応募者増につながった。けれども本学大学院生を対象としたTAに関しては人員不足の状態がますます悪化している。SA（スチューデント・アシスタント）制の導入なども検討しなければならない時期にきている。この点に関しては、今後、教育の情報化推進本部でも検討したい。